

# 第 704 回 日本小児科学会東京都地方会講話会 プログラム

**日 時： 2025年2月8日(土) 午後2時00分**

**開催会場： アットビジネスセンター八重洲 501号室**

\* 2024 年度より会場開催のみとなります。

\* 講話会プログラムの郵送はいたしませんので、各自ダウンロードいただきますようお願いいたします。

参加費	教育講演受講単位及び 学術集会参加単位について	備 考
1,000 円	小児科領域講習 1 単位 (iii 貼付用) 学術集会参加単位 (iv -B 貼付用)	* 単位を取得するためには教育講演 全ての聴講が必要 (60 分)



## 【会場アクセス】

■ JR 東京駅（八重洲口）より徒歩約 10 分

■ 日比谷線 八丁堀駅より徒歩 2 分

※日比谷線八丁堀駅（A5 出口）

アットビジネスセンター八重洲 501 号室

東京都中央区八丁堀 1-9-8 八重洲通ハタビル 5・6 階

※建物の外観：ガラスカーテンウォール

※看板表記：ABC conference room

## 【東京都地方会】

会 長：水野 克己（昭和大学医学部小児科主任教授）

主幹校：昭和大学医学部小児科 担当：阿部 祥英

連絡先：jpestokyo-office@umin.ac.jp

※講話会中の緊急のご連絡は会場 03-6627-2151 まで

東京都地方会 HP：<https://jpeds-tokyo.com/>



# 第 704 回日本小児科学会東京都地方会講話会プログラム

(1 題 6 分、追加討論 3 分以内厳守のこと)  
《プログラム係 順天堂大学 東海林 宏道》

## 一般演題 (1) 14:00 - 14:50 座長 村野 弥生 (東京都立豊島病院 小児科)

### 1) PCR 検査により迅速に診断し得た麻疹流行期におけるワクチン関連麻疹の 1 例

○野口 彩香、瀧浦 俊彦、増古 康子、吉野 浩、成田 雅美

(杏林大学付属病院小児科)

1 歳男児。MR ワクチン接種後 6～8 日の 38℃ の二峰性発熱と接種後 8 日目の全身の癒合性紅斑で受診した。カタル症状や Koplik 斑は認めなかった。麻疹流行期であったため嚴重な感染対策を施行し、保健所経由で PCR 検査を実施した。翌日ワクチン株由来麻疹と判明し、感染対策を解除した。早期の PCR 検査によって診断が確定し、適切な対応を迅速に行うことができた。

### 2) 川崎病罹患後に関節炎を発症し若年性特発性関節炎が疑われた 1 例

○鈴木 盛夫<sup>1)</sup>、長谷川 里奈<sup>2)</sup>、新村 啓<sup>2)</sup>、鶴井 萌子<sup>2)</sup>、高橋 諒<sup>2)</sup>、堤 範音<sup>2)</sup>、山崎 崇志<sup>2)</sup>、山中 岳<sup>2)</sup>

(<sup>1)</sup> 東京医科大学病院 卒後臨床研修センター、<sup>2)</sup> 同 小児科・思春期科)

2 歳女児。川崎病の主要 6 症状を呈し、2 度の大量免疫グロブリン療法、プレドニゾロン、インフリキシマブ投与で症状が改善した。プレドニゾロン減量中に両膝関節痛が出現し、中止翌日から発熱を認めた。血液検査で炎症反応の悪化や MMP-3 高値を認め画像検査では両膝関節、左肘関節の滑膜炎が示唆された。治療経過とあわせて少関節炎型若年性特発性関節炎が疑われた。川崎病罹患後の関節炎について文献的考察を加え報告する。

### 3) 免疫学的治療により神経症状が改善した Bickerstaff 脳幹脳炎の 1 例

○河西 紗希<sup>1)</sup>、中原 絵理<sup>1)</sup>、松田 慎平<sup>1)</sup>、仲川 真由<sup>1)</sup>、安部 信平<sup>1)</sup>、丸山 和隆<sup>2)</sup>、新妻 隆広<sup>2)</sup>、鈴木 光幸<sup>1)</sup>、東海林 宏道<sup>1)</sup>

(<sup>1)</sup> 順天堂大学医学部附属順天堂医院小児科・思春期科、<sup>2)</sup> 越谷市立病院 小児科)

13 歳男子。感冒罹患後に四肢の痺れ、意識障害を呈した。前医でステロイドパルス療法を開始したが改善なく、当院へ転院した。自己免疫性脳炎として免疫グロブリン大量療法、血漿交換およびリツキシマブ投与を行った。意識障害の改善に伴い眼球運動障害が顕在化し、抗 GQ1b 抗体陽性で Bickerstaff 脳幹脳炎 (BBE) と診断した。症状はしだいに改善し、独歩退院した。小児 BBE に関して文献的考察を加え報告する。

### 4) 感染後閉塞性細気管支炎に縦隔気腫を合併した 1 例

○鈴木 万美子、川口 忠恭、松田 健剛、渡邊 真太郎、青木 政子、桃木 恵美子、石井 和嘉子、森岡 一朗

(日本大学医学部小児科学系小児科学分野)

8 歳男児。入院 1 か月前にマイコプラズマ感染症に罹患した。入院当日に胸痛と呼吸困難を認め前医を受診し、縦隔気腫と診断された。当科転院後、低酸素血症と呼吸性喘鳴を認め、気管支喘息に準じて気管支拡張薬とステロイドで治療したが改善せず、CT での中枢性気管支拡張像とモザイクパターンから閉塞性細気管支炎と診断した。気管支喘息の治療に反応が乏しい閉塞性肺疾患では閉塞性細気管支炎を考慮する必要がある。

## 5) 消化管症状を合併したマイコプラズマ肺炎の3例

○佐藤 俊介、徳間 紀大、和田 卓也、宮脇 華子、深江 俊愛、村野 弥生、中澤 友幸

(東京都立豊島病院 小児科)

マイコプラズマ感染症は肺炎、気管支炎を中心とした呼吸器症状だけでなく、全身諸臓器に症状を引き起こす。合併する消化器症状として腭炎がよく知られているが、腹痛、下痢、嘔吐および機能的イレウスを呈した症例の報告は少ない。今回、7歳男児、8歳女児、10歳男児のマイコプラズマ肺炎による呼吸器症状に、消化管症状を合併した3症例について文献的考察を交えて報告する。

## 一般演題 (2) 14:50 - 15:30 座長 佐藤 真教 (東京都立小児総合医療センター 消化器科)

## 6) チアノーゼ発作で発症した扁桃体病変を伴う右内側側頭葉てんかんの乳児例

○関 千明、渡邊 浩太郎、森山 剣光、水野 朋子、高木 正稔

(東京科学大学病院 小児科)

3か月乳児。周産期異常なし。数十秒間の口唇チアノーゼを伴う呼吸減弱を繰り返すため、紹介された。当初、気道病変を疑ったが、頭部MRIで右扁桃体腫大、発作時ビデオ脳波で右側頭部から始まる高振幅徐波を認め、右内側側頭葉てんかんと診断した。カルバマゼピン、フェノバルビタールで一旦発作は消失したが、8か月後に再発したため手術を検討している。乳児のチアノーゼ発作では、内側側頭葉てんかんも考慮する。

## 7) 機能性便秘症から急性尿閉に至った1例

○岸本 あさひ<sup>1)</sup>、草川 剛<sup>2)</sup>、竹谷 洋平太<sup>2)</sup>、大石 芳久<sup>2)</sup>、山下 あかり<sup>3)</sup>

(<sup>1)</sup> 日本赤十字社医療センター、<sup>2)</sup> 同 小児科、<sup>3)</sup> 東邦大学医療センター大森病院 小児科)

2歳女児。機能性便秘症で近医に通院していた。2日間排尿がなく受診し、腹部超音波検査で膀胱内尿貯留と両側腎杯の拡張とを認めた。除外診断を行い、排便管理を行なったところ自排尿が得られたため、機能性便秘症を契機とした急性尿閉と診断した。機能性便秘症は小児で有病率の高い疾患である。合併症の一つに下部尿路障害があり、本症例のように急性尿閉に至ることもある。機能性便秘症の適切な管理が合併症予防に重要である。

## 8) 胸部X線検査で偶発的に発見された後縦隔神経芽腫群腫瘍の1例

○樋口 藍<sup>1)</sup>、古澤 恭平<sup>1)</sup>、鳴釜 里彩子<sup>1)</sup>、市川 やよい<sup>1)</sup>、伊藤 淳平<sup>1)</sup>、山崎 文登<sup>1)</sup>、下郷 幸子<sup>2)</sup>、  
嶋田 博之<sup>1)</sup>、鳴海 覚志<sup>1)</sup>

(<sup>1)</sup> 慶應義塾大学病院 小児科、<sup>2)</sup> 新百合ヶ丘総合病院 小児科)

7歳女児。咳嗽と喘鳴で近医を受診し、胸部X線検査で左肺門部の透過性低下があった。肺炎として加療され症状は改善したが、肺門部陰影が残存したため前医を紹介された。CT検査で後縦隔腫瘍があり、後方視的に評価すると、前医の3年前のX線検査でも同部位に僅かな腫瘍影があった。当院で腫瘍摘出し、神経節芽腫の診断に至った。X線検査では腫瘍陰影を肺炎像と容易に誤認しうるため、症状改善後も再検査を考慮すべきである。

## 9) 心理社会的因子の関与が明らかになった反復性吐血の1例

○森田 絵美里<sup>1)</sup>、飯島 弘之<sup>2)</sup>、山田 夏彦<sup>1,2)</sup>、小坂 小百合<sup>2)</sup>、永井 章<sup>2)</sup>、徳田 はるか<sup>3)</sup>、  
肥沼 悟郎<sup>4)</sup>、窪田 満<sup>2)</sup>、石黒 精<sup>1)</sup>

(<sup>1)</sup> 国立成育医療研究センター 教育研修センター、<sup>2)</sup> 同 総合診療部、<sup>3)</sup> 同 こころの診療科、<sup>4)</sup> 同 呼吸器科)

12歳男児。反復性吐血を主訴に来院した。血液検査では貧血や凝固異常はなく、胸部単純X線検査と喉頭気管内視鏡検査でも異常所見は認めなかった。吐血のため学校は頻回に早退していたが、教職員との情報共有から「学校で嫌なことがあると吐血する」ことが明らかになった。吐血をしても学校へ通うことができる環境を整えたところ、本人から意図的に吐血できていたことが語られた。患者、家族の振り返りも含めて報告する。

\* \* 休 憩 15:30 - 15:40 \* \*

感染症だより 15:40 - 15:55 (講演: 15分)

講師 砂川 富正 (国立感染症研究所実地疫学研究センター)

共催セミナー 15:55 - 16:35 (講演: 40分)

「HPV ワクチンを安心して接種できる環境作りと今後の戦略」

座長 水野 克己 (昭和大学医学部小児科学講座)

講師 峯 真人 (医療社団法人自然堂 峯小児科)

2022年4月より HPV ワクチンの積極的勧奨が再開され、予防接種法に基づく定期接種枠組みでのキャッチアップ接種も行われています。2024年夏頃から接種希望者が増え、ようやく接種率が上昇してきましたが、他の定期予防接種と比べて明らかに低い状況にあります。接種に前向きになることが出来ない要因が何なのかなどを考慮したうえで、診療現場での HPV ワクチン接種勧奨の具体的な準備・対策・対応などについて考えてみます。

共催: MSD 株式会社

\* \* 休 憩 16:35 - 16:45 \* \*

教育講演 16:45 - 17:50 (講演: 60分 + 質疑応答: 5分) 小児科領域講習 1単位

「臨床心臓発生学: 発生から考える小児科医の診療と研究」

座長 東海林 宏道 (順天堂大学医学部小児科学講座)

講師 山岸 敬幸 (東京都立小児総合医療センター)

小児科医は、多くの先天異常の患者さんを診療します。その中には、ヒトの発生過程における特定の領域の異常によって発症する先天性疾患が含まれます。したがって「発生」の知識を導入すると、先天性疾患の診療に深みが増します。「臨床心臓発生学」は、先天性心疾患の成り立ちを科学することで、新たな診断・治療のアイデアにつながる可能性も秘めています。疾患の本質に迫る、「発生」から考える診療と研究をご紹介します。

## ◆ 2024 講話会予定 ◆

### ■ 講話会予定

講話会	日程	会場	備考
第705回	2025年3月8日(土)	アットビジネスセンター八重洲通 (会場開催のみ)	

## ◆ 2025 年度講話会及び年間行事予定 ◆

### ■ 講話会予定

講話会	日程	会場	備考
第706回	2025年6月14日(土)	アットビジネスセンター八重洲通 (会場開催のみ)	※演題締切 2025年4月20日
第707回	2025年7月12日(土)		※演題締切 2025年5月20日
第708回	2025年9月13日(土)		※演題締切 2025年6月20日
第709回	2025年10月11日(土)		※演題締切 2025年8月20日
第710回	2025年12月13日(土)		※演題締切 2025年9月20日
第711回	2026年1月10日(土)		※演題締切 2025年11月20日
第712回	2026年2月14日(土)		※演題締切 2025年12月20日
第713回	2026年3月14日(土)		※演題締切 2026年1月20日

\* 4, 5, 8, 11月は休会

### 演題募集中!

登録方法などは詳しくは東京都地方会ホームページをご確認ください。

【東京都地方会 HP】 <https://jpeds-tokyo.com/>



## ■ 小児診療初期対応（JPLS）開催予定

日本小児科学会と東京都地方会の共催で小児診療初期対応（Japan Pediatric Life Support : JPLS）を年間3回開催されることが予定されています。

取得単位：小児科専門医（新制度）更新単位 iii小児科領域講習3単位

開催日程	会場	申込開始時期
2025年12月7日（日）	日本大学	※参加申込は各コース 4か月前より
2026年2月7日（土）	国立成育医療研究センター	
2026年2月8日（日）	国立成育医療研究センター	

申し込み先：日本小児科学会 HP

[https://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content\\_id=221](https://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content_id=221)

## ■ 第50回東日本小児科学会のご案内

会長：昭和医科大学医学部小児科学講座小児内科学部門 教授 水野 克己

大会テーマ：こどもたちの笑顔あふれる社会を目指して

日程：令和7年11月23日（日・祝）

会場：一般財団法人全電通労働会館（ハイブリッド開催）

URL：準備中

## ◆ 会員の皆様へ事務局より重要なお知らせ ◆

### 【2024年会費納入について】

2024年度より年会費が8,000円となりました。

年会費納入のお知らせを2024年4月1日にメールおよびホームページにてご案内しております。

2024年度会費未納の方は2025年3月末日までに【会員マイページ】より納入手続きいただきますようお願いいたします。

3年間未納の場合、自動退会となりますのでご注意ください。

\*会員登録事項変更等についてもマイページより各自お手続きをお願いいたします。

### 【年会費免除申請について】

学部学生（大学院生は除く）および、初期臨床研修医は年会費および講話会会場費は免除とします。

学部学生は学生証、初期臨床研修医は職員証（写）と年会費免除申請書（東京都地方会ホームページよりダウンロード可）を事務局に申請してください。

### 【東京都地方会名誉会員のご推薦について】

東京都地方会では名誉会員の推薦を随時募集しています。詳しくは東京都地方会ホームページにてご確認をお願いいたします。

ご不明な点がございましたら運営事務局までご連絡をお願いいたします。

【主幹校（会長校）】昭和大学医学部小児科

【運営事務局】日本大学医学部小児科

【主幹校／運営事務局 共通アドレス】

✉ [jpstokyo-office@umin.ac.jp](mailto:jpstokyo-office@umin.ac.jp)

【東京都地方会 HP】

<https://jpeds-tokyo.com/>



